



図書館だより

2022年3月号
徳島北高等学校図書委員会



春休みの特別貸出実施中

一人10冊まで……春休みには様々なジャンルの本を読もう!

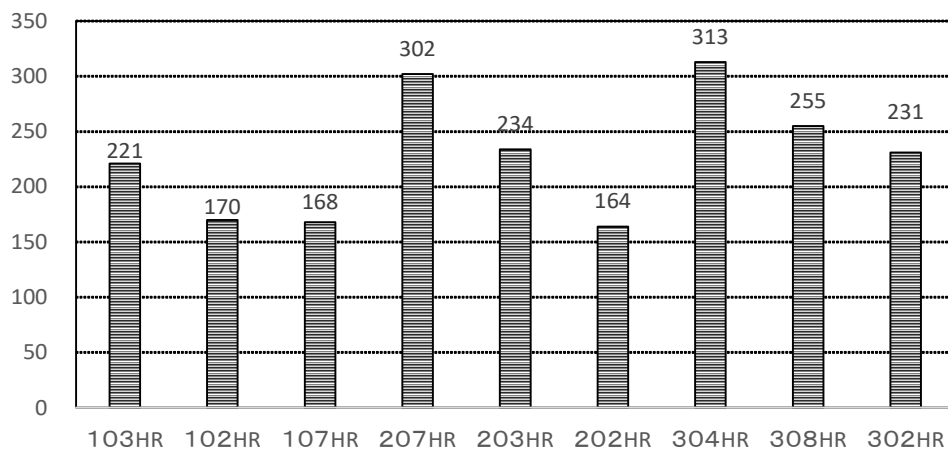
4月8日(金)始業式まで貸出

- ・返却の督促状が届いている場合は、速やかに返却してください。
- ・貸出期間を超えて借りたい場合は、必ず延滞の手続きをしてください。

図書館は春休み原則閉館です

- ・図書館を利用して幅広い本を読み、学力の基盤を作りましょう。また、自分の中の世界をより広げて心豊かな生活を送りましょう。

学年別クラス別貸出冊数BEST3(4～2月)



- ・4月～2月までの個人貸出の状況です。読解力を身につけるには読書を習慣にすることがいちばんの近道です。
- ・本を探すときには司書の先生に気軽に声をかけましょう。おすすめの本や面白い本を教えてください。

お知らせ

「第23回高校生小論文コンクール」で本校が学校賞をいただいたため、副賞で小論文関連の図書を購入します。どんどん活用してください。

受験に必要な読解力を身に付けたい高2生

受験への意識が高い高1生へ

◆◆◆◆◆この春読むのにおすすめの本◆◆◆◆◆

読解力を鍛えたり、受験を意識したりして読むのであれば評論がおすすめです。評論は、科学論・文化論・言語論・哲学論などの頻出テーマがあって、そのテーマについてよく論じられていることを知っておくだけでもずいぶん理解しやすくなります。評論は小論文の課題になることも多いので小論文対策としても役立ちます。

★「目の見えない人は世界をどう見ているのか」伊藤亜紗(著)

近年入試現代文で頻出の著者。「見えない」ことを欠落としてではなく、脳の内部の別の扉から世界を見ているとらえ、その人たちは世界をどうとらえているか考えるという発想で、当たり前のように行っている「見る」という行為を問い直す。心理・哲学的な切り口とともに、福祉のあり方にも新たな視点を提供している。

★「動的平衡」福岡伸一(著)

2・3年生の使用している「現代文B」の教科書にも登場する。すべての生命は緩やかにつながりつつ、結んではほどけて生命を営んでいる。それでは生きているとはどういう状況なのか?環境問題を考えるにあたって重要な視点を示唆する。一見、生物や生命に関して論じているようだが、この理論に立つと、「では自分だと思っていたこの存在は、本当に自分なのか」というアイデンティティにも関わる。

小論文のはじめの一冊に

小論文という授業はありません。知識と個々の考えを総合的に判断される小論文という入試科目は、一斉に学べない分、最も多くの準備を必要とするといえるかもしれません。知識がないと自分の考えも持てません。まずは自分の関心のある分野だけでも注目の話題は何か、どのような考えがあるか調べておきましょう。「どう書くか」も大事ですが、「何を書くか」の蓄積には時間がかかります。始めるのに早すぎることはありません。

★岩波ブックレット(小論文コーナーだけでなんと160冊配架!)

さまざまな領域で活躍している第一人者が、問題の本質をコンパクトにわかりやすくまとめてくれている。文化・社会的なテーマや、自然科学や技術的なテーマなどを網羅し、最新の話題から典型的・入門的な内容まで多岐にわたる。平均60ページの超コンパクトなシリーズ。小論文の題材集めや調べ学習にも活用しやすい。

その他、本年度の3年生が小論文対策として複数回借りた本を紹介しておきます

◆「何を書けばいいかわからない人のための小論文のオキテ55」

鈴木鋭智(KADOKAWA)

◆「受かる小論文の絶対ルール」樋口裕一(青春出版社)

◆「地元の力を生かす『ご当地企業』」帝国データバンク(中央公論新社)

◆「現代の幼児教育を考える」伊藤良高(北樹出版)

◆「フード・マイレージ」中田哲也(日本評論社)

◆「本当の貧困の話しよう」石井光太(文芸春秋)

◆「第四次産業革命と教育の未来」佐藤学(岩波書店)